

経営比較分析表（平成28年度決算）

大阪府枚方市 市立ひらかた病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	300床以上~400床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	23	対象	ド未訓方	救 臨 感 地 輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
404,963	31,824	非該当	7 : 1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 方…ガン（放射線）診療

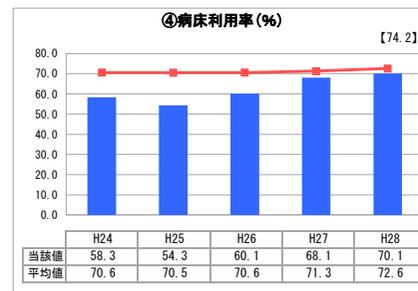
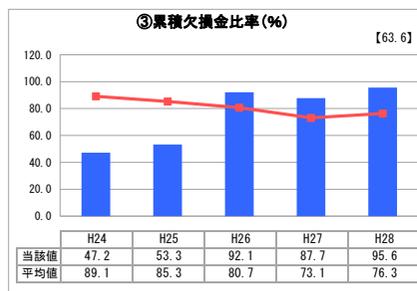
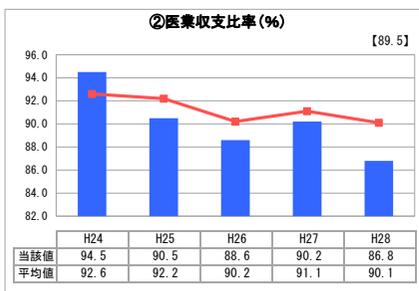
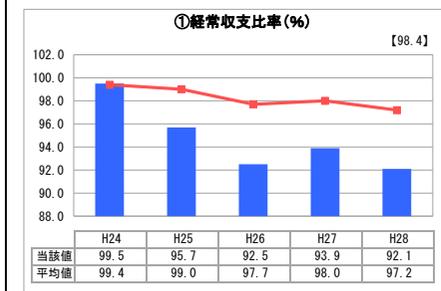
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
327	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	8	335
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
327	-	327

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

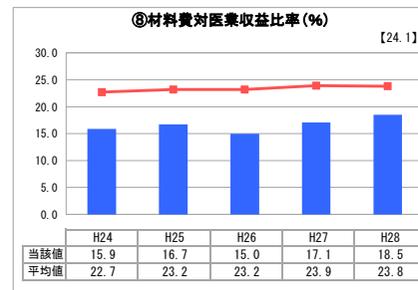
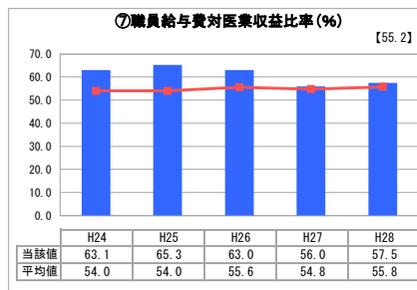
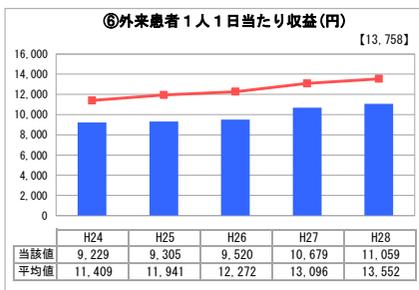
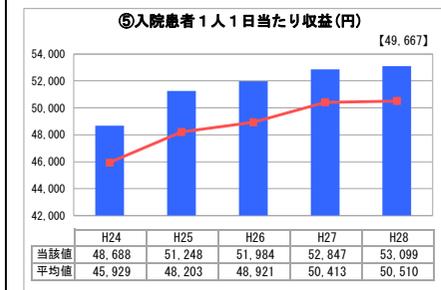


「経常損益」

「医業損益」

「累積欠損」

「施設の効率性」



「収益の効率性①」

「収益の効率性②」

「費用の効率性①」

「費用の効率性②」

I 地域において担っている役割

本院は、幅広い疾患に対して効率的な医療を提供する急性期病院の役割を担うとともに、北河内唯一の市立病院として、救急医療や災害時医療、小児・周産期医療などの政策的な医療を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性を示す、経常収支比率・医業収支比率ともに100%を下回っている要因としては、入院・外来収益ともに増加し医業収益は前年度に比べて約1億4,915万円増加したものの、医師看護師等が増加したことによる給与費の増加、高額な薬剤を院内処方したことによる材料費の増加などにより医業費用が前年度に比べて約5億235万円増加したことにより、医業収支は約11億7,157万円の支出超過となり、総収支においても約7億4,102万円の純損失を計上したことによるものです。外来患者1人1日当たり収益が類似病院平均値より下回っているのは、検査収益が少ないことによるものです。また、材料費対医業収益比率が類似病院平均値より低いのは、医業収益に含まれる一般会計繰入金が他病院に比べて多いことによるものです。

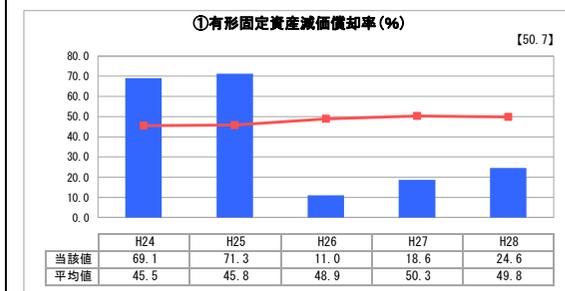
2. 老朽化の状況について

平成26年9月に新病院として開院して4年を経過したところで、現在のところ老朽化に対する心配はないものの、病院の施設については、24時間稼働していることから、施設の更新計画に基づき計画的に修繕等を行う必要がある。

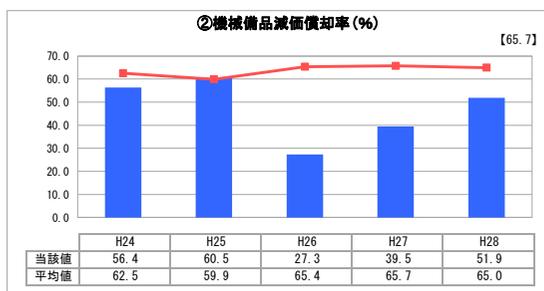
全体総括

新病院開院に向けて整備した医療機器の減価償却費が多額になることから、収支については、赤字となっている。そのような状況を改善するために医師並びに看護師等の確保により、病床利用率の向上を図っていく。また、救急搬送患者の受け入れを促進することや地域の医療機関を積極的に訪問することにより紹介率・逆紹介率の向上を図り、医業収益の増加に努める。

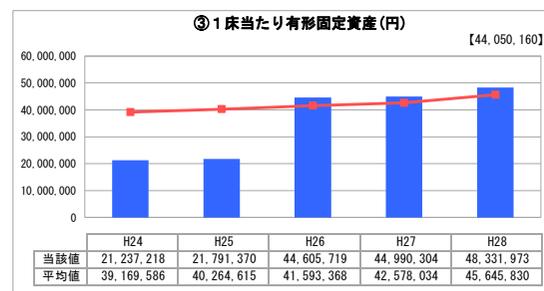
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。